

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AM11Z102	医療情報学 (Medical Informatics) *大分を創る科目(Oita Development Course)					導入教育科目 導入・転換	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	1	医学部医学科	後期	木1	日本語		単独					
担当教員	氏名 岩城貴史 E-mail iwaki48@oita-u.ac.jp 内線 5602												
授業の概要	科学実験・調査には誤差がつきものである。この誤差には測定機器や調査対象の偏りに由来するもの(系統誤差)と、純粋に確率的に入ってくる不可避の誤差(偶然誤差)の二種類がある。この授業では偶然誤差が含まれるようなデータから何かを結論するための一般的な手法を学習する。医学においては、特に疫学研究などでこのような統計的手法が必要となる。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	統計解析の基礎となる用語・概念を説明できる。												
目標2	与えられたデータから実際に推定や検定を行える。												
目標3	多変量の情報を収集し相関関係を分析できる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							10						
授業の内容													
1	推定の基礎・点推定												
2	区間推定の基本												
3	分散が未知のときの区間推定												
4	母比率・母分散の推定												
5	検定の基礎												
6	母平均の検定												
7	差の検定												
8	その他の検定												
9	データの分析												
10	相関係数												
11	単回帰分析												
12	偽相関・偏相関係数												
13	統計と医学												
14													
15													
ラーニング	A:知識の定着・確認	Moodleにて予習範囲を指定する。また、簡単な事前課題を課す。毎時間					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換	はじめに簡単な確認テストを行い事前課題が身に付いているかを確認。											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	教科書の指定範囲を熟読する(13時間)。事前課題としてMoodle上でクイズに解答する(6時間)。											
	事後学修	レポート課題に解答する(6時間)。											
	想定時間合計	25											
教科書	まずはこの一冊から 意味がわかる統計解析: 涌井 貞美 (ペレ出版、2013年) (ISBN 978-4-86064-345-4)												
参考書	基礎統計学I 統計学入門: 東京大学教養部統計学教室編 (東京大学出版会、1991年) (ISBN 978-4-13-042065-5)												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	確認テスト	13%										
	小テスト・レポート	27%										
	期末テスト	60%										
	各回の授業における小テストやレポート課題を合わせて40%、期末テストを60%ととして総合的に評価する。											
注意事項	医療情報システム学を履修済みの学生を想定して授業を行う。教科書の1章から4章までは事前に習熟しておくこと。											
備考	授業中の演習・小テストなどで、数値計算を行う場合、関数電卓を用いても良い。											
リンク												
	URL											